



2013年(平成25年)春

これからの袋井市

寺田 守

新しい年が始りました。この袋井市がどのように歩いていくか、私はこの1年は今後の市政の方向性を占う上で重要な年になると思っています。



エコパより富士を望む

◆「日本一健康文化都市」の現状

当市は「日本一健康文化都市」を掲げているまちです。昨年、厚生労働省は、高齢者が健康で過ごせる年齢を「健康寿命」とし、調査結果を発表しました。それによれば、静岡県の健康寿命は73.53歳で日本1位ということでした。当市の状況は、「お達者度」と言う県の指標で知ることが出来ますが、女性は5位という結果で、元気な高齢者が多い県内でも上位にありました。

また、近年の国勢調査によると、当市の人口増加率は、県下の市町が減少傾向にある中で2.24%増、県下5位という数字でありました。特に注目すべきは、人口1000人当りの普通出生率が、当市は11.8人、県下1位ということでありました。

これは当市が、いろいろな意味で住み良いまちであることを示しているのかもしれませんが、課題がないわけではありません。

◆医療・防災の課題

まず、市民の健康を支える医療、こちらの方は、地域の2次医療を担う中核病院、「中東遠医療総合センター」が5月1日に開院します。これで市内では出産も出来ないという状況がひとまず解決されます。

また現市民病院、こちらは「聖隷袋井市民病院」として継承し、初期治療、及び回復期医療を担うことになりました。これで医療後進地といわれる現状は大きく改善される見込みですが、これから先数年は始動期

間として注視が必要と思われます。

そして、市民の命を守る防災、こちらも来るべき南海トラフ地震への備えを怠ることは出来ません。今、市の南部では、想定される最大10mの津波に備え、避難タワーや高台「命山」の建設を急いでいます。また、全市の52.7%で危険性があるとされる液状化対策。耐震家屋、家具固定も重要な課題となっています。当然、浜岡原子力発電所の稼働如何も議論に入ってくるでしょう。

◆将来を託す政策

こうした「守り防ぐ」政策とともに、子供達や産業の育成と言った将来への投資も怠ることは出来ません。

この数年、市は民間の力も借りながら、保育園、幼稚園を整備してきました。しかし未だ十分でない現状を聞くにつけ、根本的な需要の調査と増設が必要です。

また、9月には豊沢地区に建設されている新学校給食センターがオープンし、市内31の幼稚園、小学校、中学校で完全給食を実施します。老朽化した市民体育館の改築も含め、子供をとりまく教育環境の整備は、早急に実

施していかななくてはならない課題と思います。

将来の市の産業という点では、昨年、新東名が開通しました。東海道「どまん中」といわれ東西の流通の要衝に位置してきた当市、今後は更に現東名との接続を視野におき、これを当市の発展へとつなげて行かなくてはなりません。

今年から、袋井駅舎の新しい建替え工事、南北自由通路の開設工事本格化し、市の玄関口も変わろうとしています。

2面へ続く▶▶



ホームページを更新しました

<http://www.mamoru-t.net>

袋井市議員 寺田守

でも検索できます。

◆地域資源の利活用

しかし私は、これらを本当に活かし発展につなげて行くには、市の内側からの力、「内発力」がどうしても必要のように思います。そのきっかけは、何と言ってもこの地域にある地域資源に光を当て、これを大いに掘り起し、発展させて行くことだと思っています。

当市には、かつて田面(とうもん)と言われた広大な農地が広がっています。この恵まれた環境を利用し、茶、米、メロンと言った特産品は勿論、新たな商品開発、6次産業といわれる農工商連携型による活性化がどうしても必要です。

また、当市には、遠州3山をはじめとする有力な歴史文

化資源があります。これを観光や交流の起爆剤として結びつけ、発信していくことは、これからの重要なテーマと思います。

更に、当市には、ベトナム、台湾、中国などアジア諸国と交流した歴史遺産が遺されています。「アジア諸国の成長を取り込む」と言いますが、当市には当市なりの関係づくりがきつと可能ではないかと思えます。

8万7000人の袋井市民の夢と希望を託すことが出来るまち、更に市民の皆さんと共に夢を広げ、実現して行けたら本当に幸いと思えます。



11月議会報告

11月定例議会が、11月27日から12月19日まで開催され、本年度一般会計補正予算1議案、特別会計補正予算2議案、事業会計補正予算1議案が提出され、可決されました。

また、地域主権推進一括法に関連する条例制定8議案、新病院開設に関連する3議案などが提出され、いずれも可決しました。

◎ 一般会計補正予算(3億7200万円)の主な内容

◆笠原幼保園施設整備事業 1,592万5千円
笠原幼稚園に保育所部分を増築するための土地費用です。

◆環境保全費 990万円
太陽光発電、ハイブリット車購入に関する補助金。当初予算3800万円と合わせて4790万円となりました。

◆防災事業諸経費 3,050万円
家庭内家具固定に関連する委託料・材料費2320万円、鷲巣村松地区の浸水センサー増設費用750万円が主なものです。

◆職員給与費 2億9,471万円6千円
退職職員が予定より増えて13名となり、2億200万円増加したことが主な要因です。

◇債務負担行為 10億円
平成25年度～29年度、5年間の袋井市民病院事業の運営補助金。現病院は、聖隷袋井市民病院として継続されますが、毎年度2億円を上限に5年間、市は補助金を出して経営を支援します。

地域主権に関する条例制定8議案

地域の自主性・自立性を高めるための法律・地域主権推進一括法の制定により、これまで国が行ってきたものを市が行うようになり、必要となった条例の制定です。

介護保険法の改正に伴うもの3件、下水道法1件、市道1件、公営住宅法1件、公園法1件、河川法1件となっています。

新病院開設に関連する議案

◎袋井市民病院を指定管理制度にして新たに運営するための条例改正

◎中東遠医療総合センターを運営する掛川市・袋井市民病院企業団の規約制定

◎現市民病院の名称を「袋井市立聖隷袋井市民病院」とし、社会福祉法人・聖隷福祉事業団を指定管理者とする議決。
平成25年5月1日から平成30年3月31日まで

学校施設での天井落下防止対策は

質問 東日本大震災では、建物の天井や照明器具など非構造部材の落下事故が多発した。体育館など学校施設は災害時の避難所にもなっており、耐震対策は進んでいるか。

回答 今年度より救護所に指定されている体育館から対策を進めており、4校で既に実施した。今後全ての学校において、早期に対策を講じていきたい。



↑ 体育館の非構造部材の安全対策

暴走族・爆音車両の取り締まりは

質問 夜間、爆音を発して路上を走行し、市民の安眠を妨げる暴走行為が後を絶たない。「第9次袋井市交通安全計画」には、「暴走族対策の強化」がうたわれているが、指導や取り締まりはどうなっているか。

回答 少年補導員による巡回や防犯パトロールを実施している。袋井警察署にも、更なる夜間パトロールの強化や検挙及び補導の強化を要請していきたい。



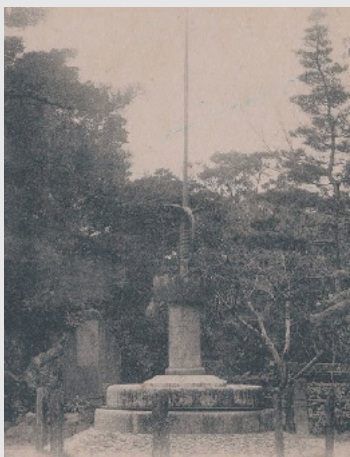
協働まちづくり事業と地域資源の掘り起こし

質問 可睡斎・活人剣の石碑など、協働まちづくり事業で地域資源の掘り起こしが行われている。今後これら活動への市の支援は。

回答 これまでに地域資源に関する14事業が実施されている。これらは本市の魅力あるまちづくりに向けた有効な手段の一つであり、市民との連携を更に深めていきたい。



↑ 11/18可睡斎で行われた活人剣のフォーラム



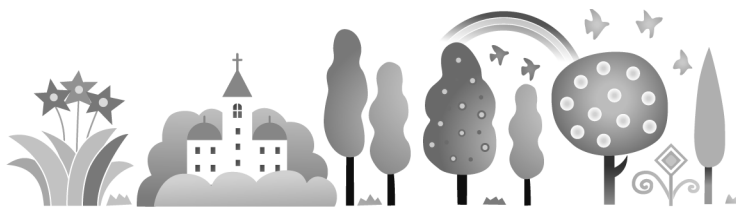
↑ 建立当時の活人剣の碑

【活人剣】 可睡斎には活人剣（かつんけん）といわれる石碑が遺されている。この石碑は明治31年（1898年）、当時の可睡斎主・日置黙仙禅師によって建立されたもので、日清戦争の最中、陸軍軍医総監で後に順天堂大学第3代堂主となる佐藤進の偉業を記したものである。当時、下関での講和交渉の最中、清国全権大使の李鴻章が暴漢に撃たれ重傷を負うという事件が発生する。この時、明治天皇の勅命を受けて治療に

あつたのが佐藤進で、氏は見事に治療に成功し交渉は再開される。李鴻章とも、氏の腰に下げていた軍刀についての質問に、「これは人を救うための剣『活人剣』である」と禅の問答で応えて信頼される。石碑には「国手」（国を救った医者）、「妙手回春」（医師への最大級の賛辞）という氏に対する賞賛の文字が刻まれている。石碑の先端には、高村光雲が製作したという剣の鑄造があつたが、供出されて今は無い。

☺みんなの力で住み良いまちをつくろう

まちがどウオッチング



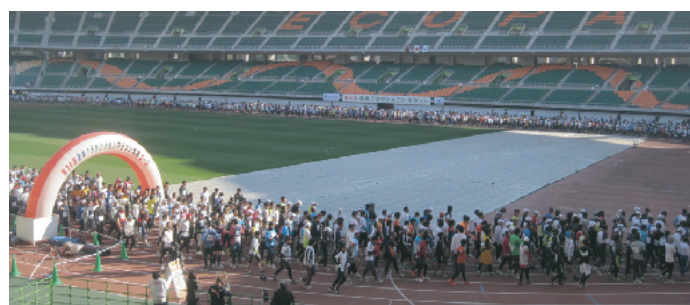
津波避難施設「きらりんタワー」が完成

浅羽南幼稚園とあさば保育園の間に津波避難タワーが完成し、12月4日完成式典が行われました。高さは12m(海拔2.2m+地上高9.8m)、避難スペースの面積は160m²、約270人の収容が可能です。タワーは、階段とスロープの2箇所から上がれるようになっており、頂上には太陽光発電による照明設備も付けられています。建設費用は、用地費1050万円、工事費1億1539万円、確りとした造りで子供達を守ります。



↑一斉に避難する園児(12/4)

←タワーの名称は子供達が名付け親



↑エコパを出発するランナーの大集団(12/9)

参加者倍増クラウンメロンマラソン

県袋井市クラウンメロンマラソン大会が、12月9日(日)小笠山総合運動公園エコパスタジアムで開催されました。クラウンメロンマラソンは、42.195kmのフルマラソンを走ることが出来る大会として全国にも知られ、24回目となる今年の大会には昨年の倍近くとなる6700人のランナーが参加しました。急激な参加者の増加で、袋井市スポーツ協会をはじめ事務局も対応に追われました。

ベトナム商工会議所が袋井市を訪問

レ・バン・ロイ部長をはじめとするベトナム商工会議所の一行16人が、11月18日当市を訪れ、袋井商工会議所との交流を深めました。これまでベトナムの商工関係者が静岡県を訪れることは珍しく、当市に下車することはありませんでした。今回、当市を訪れたのは、昨年4月「浅羽佐喜太郎石碑」の縁で当市の訪問団がベトナムを表敬訪問したことがきっかけとなっています。今後、当市とベトナムとの経済面での交流が期待されています。



↑記念碑を訪れたベトナム商工会議所の一行(11/19)

袋井茶上納650年祭

今から650年前、袋井産のお茶が京都の公家に納められていたという史実をもとに、これを再現する儀式が11月17日、(株)荻原製茶の茶園で観光協会主催のもと開催されました。あいにく雨模様でしたが、ツーデーウォークの初日とあって多くのウォーカーが足を止め、当時の古式ゆかしい儀式を楽しんで行かれました。この史実は1362年(貞治元年)の「師茂記」(もろもりき)に残っているもので、茶の記録として県内で一番古く、袋井茶の由緒ある歴史を伝えるものとなっています。



←古式ゆかしい
上納茶の儀式(11/17)

可睡斎・護国塔がライトアップ

一昨年、可睡斎にある県指定文化財・護国塔が建立100年を迎えましたが、昨年の大晦日、この塔が除夜の鐘にあわせてライトアップされました。護国塔は日露戦争での8万人余の戦死者の慰霊のため建立されたものですが、設計者は日本建築界の大家として知られる伊東忠太博士で、ひときわ目立つ建築様式となっています。この日ライトアップされた護国塔は、白く荘厳な姿を夜空に浮かび上がらせていました。



↑ライトアップされた護国塔(12/31)